

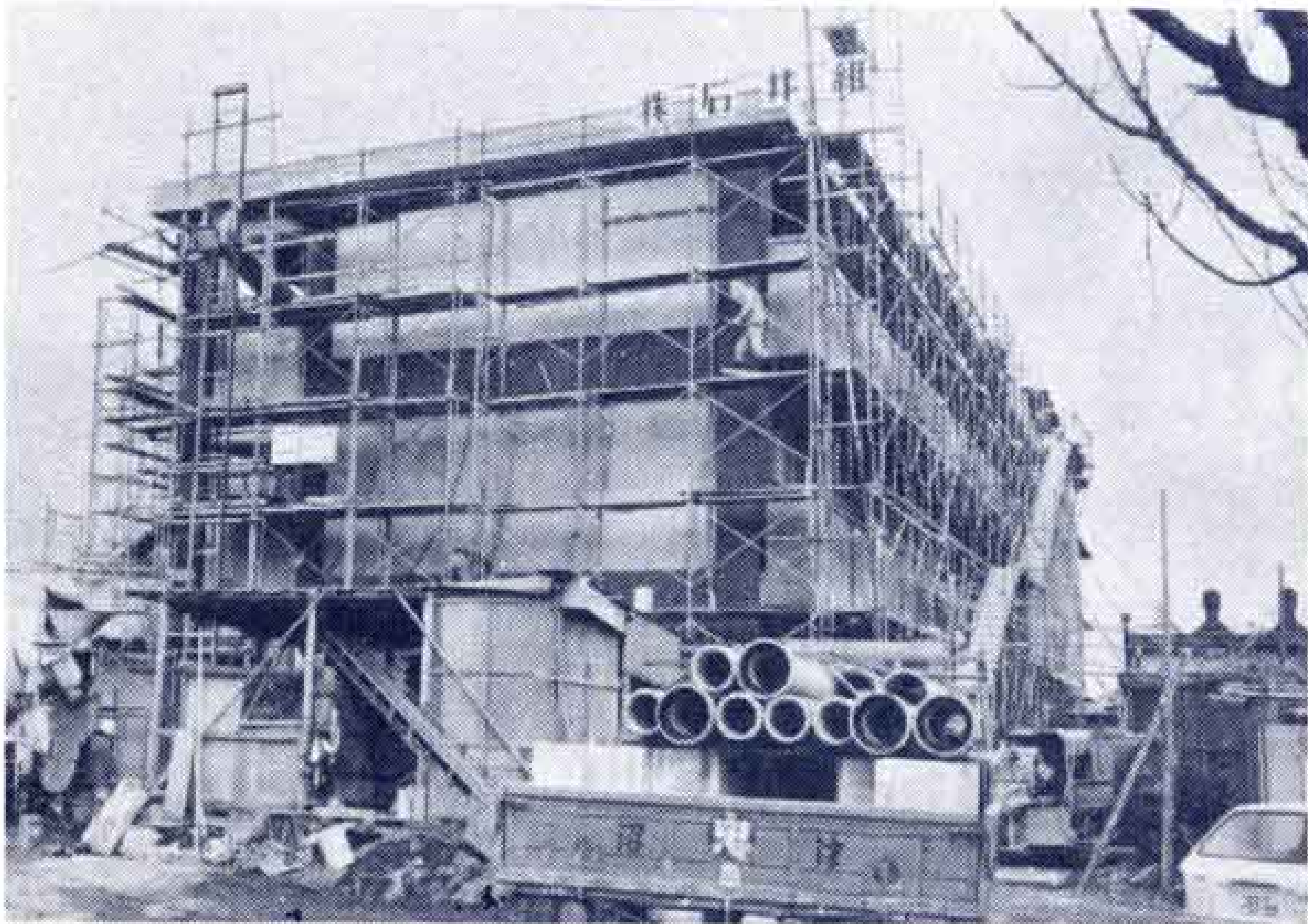
内示

こどもや老人などの生活を 守る施策は7億6504万円

こどもや老人などの生活を守るための施策はこどもと母親、老人、消費者、勤労者などがあります。

乳幼児の医療助成事業(対象人員3345人)に3675万円、老人医療費助成金支給

事業(国庫補助対象人員6080人、市単対象人員620人)に2億6343万円、そびな保育園増設事業に2842万円、公設地方卸売市場運営管理費に2億9440万円などです。



最後の仕上げを急ぐ岩松
小学校校舎建設

教育や文化の水準を高める施策は 31億9090万円

教育や文化の水準を高めるための施策は幼児教育、義務教育、高等学校、社会教育、社会体育などがあります。

幼児教育関係では田子浦幼稚園改築事業に9437万円、私立幼稚園PTA助成事業(1人年額1万円を12,000円に引上げ3600人分)に4320万円などです。

義務教育関係では、富士見台小学校(仮称)新設事業に4億8812万円、広見小学校屋内運動場新築事業に

8880万円、富士南小学校(仮称)用地取得事業に7億5000万円、岳陽中学校増築事業に2億8726万円、須津中学校改築事業に4億2592万円、文教施設整備用地取得事業(仮称天間小・富士中央小)に6億円などです。なお、富士見台小、岳陽中、須津中は52年度の債務負担行為分も含んでいます。

社会体育関係では、卓球場新築事業(プレハブ平家建129平方メートル)に1094万円、木の宮運動場公園テニスコート整備事業に480万円などです。

婦人教室で地域の問題 を市長と話し合い

市内16地区の婦人会員110名が出席して、2月25日「婦人教室」を市役所10階研修室で開き、渡辺市長と地域の問題について話し合いを行いました。

婦人達は昨年4月から、婦人の役割や地域の問題点などを話し合い、これまで自分達の力で解決できるものはどんどん解決してきました。それ以外のものも各種団体と話し合いを続けてきましたが、それでも解決できない問題を、この日の婦人教室に持ち寄って、市長と話し合いました。



まずはじめに連合婦人会として、山崎会長から婦人会館の建設、市のマイクロバス使用などについて出されました。続いて地区ごとに質問が出されましたが、元吉原からバイパス道路の経過について。吉原・広見は公民館の建設。伝法・鷹岡・原田から下水道計画について。須津から私立幼稚園の助成金についてなど、日常生活に密接に結びついたものばかりでした。

これに対し渡辺市長から問題点ごとにこまかな説明がなされ、2時間余りにわたって懇談を行いました。



【熱心に話しを聞く婦人たち】